第18回長野県高等学校商業総合競技大会実施要項

（第65回全国高等学校珠算・電卓競技大会長野県予選会）

１　競技種類・内容

（１）団体競技・個人総合競技 （普通計算・応用計算）

（２）個人総合競技（普通計算・応用計算）

（３）種目別競技（伝票算・読上暗算・応用計算・読上算）

２　競技方法

　　珠算競技と電卓競技は同じ会場で実施する。

（１）団体・個人総合競技（必要により決勝を行う）

　　①普通計算　 　珠算（制限時間１２分）、電卓（制限時間６分）

（電卓競技の普通計算は、珠算競技の普通計算開始の合図から６分後に開始する。）

 ②応用計算 　 珠算・電卓（制限時間１５分）

（２）個人種目別競技

次の各種目を「勝ち残り」の方法で行う。

①伝 票 算　　予選３題（制限時間３分）　　決勝勝ち残り

②読上暗算　　予選３題　　　　　　　　　　決勝勝ち残り（珠算のみ）

③応用計算　　予選３題（制限時間４分）　　決勝勝ち残り

④読 上 算　　予選３題　　　　　　　　　　決勝勝ち残り

３　競技上の注意

（１）全商珠算・電卓実務検定試験上の規則を準用する。

（２）競技上の注意

　　・各競技の実施方法については、競技委員が説明する指示に従って競技すること。

　　・そろばんは、計算している時以外は、すべて机の左側に縦に置くこと。電卓は計算している時以外は、すべて机の上側に置くこと。なお、読上暗算の競技中は、そろばんは机上に置かないこと。

・問題が配られても、指示があるまでは裏返しのまま机の上に置くこと。

　　・競技委員の指示によって、定められた欄に「競技番号」を記入し、直ちに元の通りに裏返すこと。なお、特別の指示がある場合以外は、答案用紙には競技番号だけを記入し、氏名その他は記入しないこと。

　　・筆記用具は「始め」の合図があってから持つこと。

　　・ぶんちんを使用する場合には、「始め」の合図後に答案用紙に置くこと。

・競技委員の「止め」の指示があったら、計算または答えの記入を中止して、すぐに答案用紙を裏返しにすること。

　　・電卓競技における計算は原則として電卓を使用するが、使用しなくてもよい。

　　・団体競技及び個人総合競技の順位決定のための決勝を行う場合は競技委員より指示をする。

（３）答案記入上の注意

・答えには基本的に全て名数記号をつけること。

 　・答えには、単位より３桁ごとに「，」（コンマ）をつけること。

・答えの訂正には、消しゴムを使用してもよい。なお、消しゴムを使用しない時は、記号を　含めて全数字を横線で消し書き直すこと。（名数記号が残っていると誤答となる）

・答案を記入する上で、なぞり書きや一字訂正（１文字だけの訂正）は誤答とする。

（４）総合競技「普通計算」の競技進行について

①普通計算は、先に「珠算競技」を開始する。

②「電卓競技」の選手に向けて「３分前」の掲示をする。

③「電卓競技」の選手に向けて「１分前」の掲示をする。

④競技開始「30秒前」に、競技委員が手を上げる。

⑤競技委員が手を下げたら「電卓競技」を始める。

⑥競技委員の「止め」の合図とともに「珠算競技」及び「電卓競技」を同時に終了する。

（５）総合競技「応用計算」の競技進行について

　　　応用計算は「珠算競技」「電卓競技」ともに制限時間１５分とする。同時に始め、同時に終了する。

（６）個人種目別競技における注意

①伝票算競技

　　・競技委員の指示で、ページ数の確認をする。その際、内容を見る、計算する、折り目をつけることは認めない。

　　・競技開始前も、競技中も、表紙を取ることは認めない。

　　・伝票ホルダーを使用する場合には、「始め」の合図後に伝票をセットする。

　　・順位決定のための挙手と返事についてはその場で改めて指示をする。

②読上暗算競技　 指示が無くても、読み終わったら答えを記入する。

③応用計算競技　 順位決定のための挙手と返事についてはその場で改めて指示をする。

④読上算競技

・問題の「零(０)」は読まない。

・計算の途中、または答えが１３桁にならないように作問する。

・指示が無くても、読み終わったら答えを記入する。

　　　※競技が終了した選手は、選手の競技および進行を妨げないように、着席して静かに待機する。（特に物を落としたり、音を出したりしないように注意する。）

４　審　査

（１）普通計算　乗算１０題、除算１０題、見取算１０題　１題１０点、個人の満点３００点

（２）応用計算　１５題　１題２０点、個人の満点３００点

（３）種目別競技は会場にて競技委員が審査する。

（４）順位決定について、同点は同順位とし、同順位の次は欠番とする。

５　表　彰

（１） 団体　上位３校を表彰する。優勝校には優勝カップを贈る。

（持ち回り。ただし、３年連続の場合は永久杯を贈る）

 　 珠算競技優勝校には優勝旗を贈る。

（２） 個人　上位５名を表彰する。

（３） 種目別競技　　　各種目とも　　１位～３位

６　全国大会代表基準

（１）珠算競技

①団体　　１校（３名）

　②個人　　・全商協会から指定を受けた人数

（全商珠算・電卓実務検定の受験者数実績に基づく）

・団体出場者を除き、個人総合得点の高い者から選出する。ただし、同じ学校内での　出場人数は最大４名までとする。

（２）電卓競技

①　団体 　１校（３名）

②　個人 １名

 ・団体出場者を除き、個人総合得点の高い者から選出する。ただし、同じ学校内での出場人数は最大３名までとする。

７　その他

（１）役員は当日の競技別職員打合せ会において決定する。

（２）答案審査において、競技番号の誤記、未記入その他については、係員が合議の上処理する。

（３）県代表選手に決定し、全国高等学校珠算・電卓競技大会に出場するとき、個人種目別競技は１人２種目までとする。出場種目については、本予選会の個人種目別競技の成績を優先する。

（４）本大会の問題作成は検定本部に一任する。

第18回長野県高等学校商業総合競技大会実施要項

（第29回　長野県高等学校ワープロ競技大会）

１　競技種類・内容（出題範囲）

（１）問題はＡ４判用紙とし、全国商業高等学校協会主催ビジネス文書実務検定試験出題基準に準じて作成する。なお、問題は１種類とする。

２　競技方法（時間および出題形式）

（１）速度競技とし、制限時間は１０分間とする。ただし、印刷は時間外とする。

（２）答案用紙はＡ４判用紙を１人につき４枚配付し、うち１枚は練習問題印刷用とする。

３　競技上の注意（競技細則・大会実施細則等）

○ 機械システム

（１）機械システムの形態、パソコンの機種の別は問わないが、入力装置はキーボードに限る。ワープロ専用機や親指シフト・新ＪＩＳキーボードは使用できない。

（２）キーボードの配列の方式は、ＪＩＳ配列のものに限る。なお、キーキャップをはずすなどの改造・改変は認めない。

（３）会場内に搬入するシステムは、本体・プリンタとも１校につき３機種（３台）までと、書見台・延長コード（５メートル程度）とする。ただし、キーボードは９面まで準備してもよいが、机上に置けるのは１面のみとする。控え室には、キーボードを持ち込んでもよい。（レーザープリンタは使用禁止とする。）

（４）文書ファイルは必ずすべて削除しておく。

（５）機械システムの輸送・搬入・搬出及び据え付けは、すべて出場校の責任において行う。

（６）文字列の先頭の数文字を入力すると自動的に、以前の変換候補を表示できる機能（注１）を持つ日本語入力システムを使用する場合は、その機能をオフにして競技すること。

（注１）　Tabキーを押して強制的に以前の変換候補を表示する機能を含む。

該当する入力システム　 ・一太郎（ATOK） 省入力

・Word（IME）　 予測入力

・OASYS（Japanist） 入力予測

○ 競技進行手順　　別紙参照。

○ 失格規定

（１）エラー数が３０以上の場合は失格（純字数０）とする。

（２）競技の円滑な進行を妨げると判断されるトラブルが発生した場合は失格とする。

① 明らかに本人のエラーにより印刷できない場合。

② 競技中に機械が故障した場合。

③ その他、競技委員が競技の円滑な進行を妨げると判断した場合。

いずれの場合も、１０分をめどとして失格の判断をくだす。

（３）問題文の一部または全部を記憶媒体に保存させたまま、次の競技者に引き継いだ場合、その団体を失格とする。

（４）上記３の「 ○ 機械システム」の規定に反した場合、その個人および団体を失格とする。

４　審　　査

○ 審査基準

（１）エラー１箇所について１０字減とする。

（２）印刷時のエラーの減点

① 用紙の裏面に印刷した場合

② 逆さに印刷した場合

③ 印刷した文字が氏名欄にかかった場合

（ただし、印刷した文字が判読できない場合は、さらにその文字数分をエラーとする。）

④ 用紙が破れた場合

以上の場合は、配付した用紙１枚ごとに１エラーとする。

なお、④の場合再印刷が可能な状態であればこれを認める。

（３）書式設定のエラーの減点

① 行数の過不足については全体で１エラーとする。

② 桁数の過不足については全体で１エラーとする。

（４）その他については審査委員会の審査に基づき、審査委員長が決定する。

５　表　　彰

（１）団　体　　上位３校を表彰する。優勝校には優勝カップを贈る。

　　　　　　 　（持ち回り。ただし、３年連続の場合は永久杯を贈る。）

（２）個　人　　上位５名を表彰する。

（３）正確賞　　（個人）　総字数が１０００字をこえ、正確に打たれたもの。

　　　　　　　　（団体）　３名の選手が正確賞であったチーム。

６　北信越大会代表基準

　　上位３校を、北信越大会出場校とする。

７　全国大会代表基準

（１）団体優勝校を県代表校とする。

 ただし、前年度全国大会で入賞校があった場合は、**団体優勝と準優勝校**を県代表として全国大会出場校とする。

（２）団体出場校の選手を除く、上位1名を個人参加選手として選出する。

８　その他

（１）使用する機械は、各校で持参すること。

（２）参加校は、会場の机の上にステープラを必ず用意しておくこと。

（３）出場選手は、筆記用具・練習問題を各自持参すること。

（机上に置き、使い回すことはできない。）

クリップを使用する場合も各自持参すること。

（４）競技会場、競技前控室には携帯電話を持ち込まないこと。

（開会式前から顧問あるいは補欠選手が全ての競技が終了するまで保管をする。）

（５）参加校は大会前に、大会で使用するプリンタで生徒に印刷練習をさせておくこと。

その際、次の点に留意する。

① キーボード等に触れないよう席を立って用紙をセットし、印刷操作を行うこと。

② 通常がネットワークを利用した印刷になっている場合は、ネットワークから外した状態で起動・印刷を行う練習をしておくこと。

第18回長野県高等学校商業総合競技大会実施要項

（第27回　長野県高等学校情報処理競技大会）

１　競技種類・内容

 全商情報処理検定（ビジネス情報部門、プログラミング部門）程度の筆記問題とする。

２　競技方法

第Ⅰ部 関連用語とデータベース　40分間

第Ⅱ部 表計算とアルゴリズム　　40分間

３　競技上の注意

（１）筆記用具は、鉛筆またはシャープペンシルと消しゴムとする。

（２）電卓は使用してはならない。

４　審　　査

（１）競技問題は第Ⅰ部100点、第Ⅱ部100点、合わせて200点を満点とする。

（２）二部門の個人合計を求め、各団体上位３名の得点合計により団体順位を決める。

（３）個人順位は、個人得点合計により決定する。

（４）順位決定については以下の通りとする。

　　① 同点は同順位とし、同順位の下位は欠番とする。

 　② 全国大会参加者決定において同順位により決定できない場合は以下の通りとする。

 　（ア）第Ⅱ部の高得点者（学校）を優先する。

　　　　（イ）上記の方法でも優劣がつかない場合は、第Ⅱ部で難易度の高い問題の得点の高

　　　　　　　い者（学校）を優先する。

５　表　　彰

（１）団　体　上位３校を表彰する。優勝校には優勝カップを贈る。

　　　　 　 （持ち回り。ただし、３年連続の場合は永久杯を贈る）

（２）個　人　上位５名を表彰する。

６　全国大会代表基準

（１）団体優勝校を県代表校とする。

（２）県代表校の選手を除く、上位２名を個人参加選手として選出する。

７　その他

　　　当日の運営については、別途「競技細則」による。

第18回長野県高等学校商業総合競技大会実施要項

（第36回　長野県高等学校簿記競技大会）

１　競技種類・内容

 「簿記」「会計」「原価計算」に関するすべての内容を範囲とする。

２　競技方法

 　時間は90分（休憩10分をはさみ、第1部45分・第2部45分）とする。

３　競技上の注意

（１）使用する勘定科目は、各問題に指定されているときの他は、全商簿記実務検定の標準勘定科目例のものを原則とする。なお、現行教科書に使用されているもので、同一の内容を示すものは使用してよい。

（２）記入は鉛筆、ペンまたはボールペンのいずれでもよい。

（３）赤記すべきところは赤記する。

（４）ケイ線等の線は定規を使用する。

（５）文字の訂正は該当文字を、数字の訂正は全数字を複線（黒または赤、フリーハンド不可）で抹消し、ケイ線の訂正はその両端に「×」の記号を付す。訂正箇所の認印は不要である。

（６）答案用紙及び問題用紙に注意事項があればこれに従う。

（７）次のような答案は誤答となる。

　　①　誤字・脱字・略字または不明瞭な文字・数字がある場合

　②　漢字で書くべき勘定科目をかなで書いた場合、又は不要な送り仮名をふった場合。

　③　勘定科目を略称で書いた場合。

（８）記録式電卓及びアラーム付き時計は使用してはならない。タイマーの使用を認める。ただし、競技開始から終了まで音を出さないこと。

４　審　　査

（１）競技問題は第１部100点、第２部100点、合わせて200点を満点とする。

（２）二部門の個人合計を求め、各団体上位３名の得点合計により団体順位を決める。

（３）個人順位は、個人得点合計により決定する。

（４）順位決定については以下の通りとする。

　　① 同点は同順位とし、同順位の下位は欠番とする。

 ② 全国大会参加者決定において同順位により決定できない場合は「事務手続集」の規定によることとする。

５　表　　彰

（１）団　体　上位３校を表彰する。優勝校には優勝カップを贈る。

　　　　　　 （持ち回り。ただし、３年連続の場合は永久杯を贈る）

（２）個　人　上位５名を表彰する。

６　全国大会代表基準

（１）団体優勝校および準優勝校を県代表校とする。

（２）団体優勝校・準優勝校の選手を除く、上位２名を個人参加選手として選出する。

７　その他　　　当日の運営については、別途「事務手続集」による。